

ことは仲々難事業である。これには経営を頂点とするいろいろの条件が“共同”の方向に揃つてゐていなければならぬが、少くともこのような意味での共同研究は弊害をともしることなしに強く推進できることであり、また将来の日本鉄鋼業の発展のために不可欠のものでもある。何となれば、現在の各社の合理化拡張計画は規模においても速度においても極めていちじるしいものがあり、この新設備を充分にいかすためには新技術の体得と、さらには向上のための工夫、研究が是非とも必要であり、共同研究はこれをもつとも能率的に促進させる大きな手段であるからである。

以上鉄鋼技術の現状と、なお一層の共同研究の必要性について私見をのべた次第である。

#### <アメリカ便り>

10月27日 オハイオ州クリーブランドにて。 長谷川正義

(前略) 小生お蔭様で健康を保ち及ばず乍ら予定の研究、調査を続けております。ミシガン大学では原子炉の実験室と冶金の教室の双方で原子炉材料を主としてステンレス鋼を勉強しておりますが、途中約40日に渉り五大湖周辺の鉄鋼業地帯を巡りカナダに入り Chalk River の原子炉その他を見学致しました。

本月初旬より Pittsburgh, Cleveland, Boston の工場、大学を見学し乍ら New York に至り、18日よりの世界冶金会議に集合致しました。日本よりの出席者は大変多く 30 名近く集まりましたので、恐らくドイツと一二を競う多数と思います。協会からの出席者の三島先生、河上先生、堀川氏などその他の方々もお疲れの御様子もなく御元気でした。

21日より9班に別れて夫々の見学旅行に出発致しました。小生の原子炉材料関係は Brookhaven 研究所, Silcorn(ウラン燃料), G.E. 研究所などをすでに見学致し、只今当地に日曜を過しておりますが昨日よりの雪が今朝からはエリー湖より吹つける寒風で吹雪となつて参りました。

明日以降 Battelle Mem. Inst., Brush Be., Oak Ridge 及び Argonne などの研究所の見学を続け 11月2日～8日のシカゴの講演大会で、また全員一緒になる予定で御座います。

原子炉用鉄鋼材料についてアメリカの現況を知ることは、この種の学会見学ではむしろ困難で御座いますが、ミシガンで集めました資料など何れ取纏めて御報告したいと思つております。

小生、学会終了後ミシガン大学に帰りますが、予定を早め、年内にはヨーロッパに向け出発するつもりでおります。